

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
裏務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.体内環境の調整メカニズムを説明できる。 2.神経における興奮伝導のメカニズムとその特徴を説明できる。 3.中枢神経系の各部位(脊髄～大脳)の役割・機能を説明できる。 4.骨格筋の収縮メカニズムを説明できる。 5.体性感覚を分類して列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 6.心電図の記録法と各波形の意味について説明できる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。						
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	生理学総論	1.生体の構造 2.細胞生理 3.細胞膜の興奮 4.物質輸送					
第2週	筋の収縮	1.骨格筋の構造 2.筋収縮メカニズム 3.筋収縮の型 4.筋線維の特徴					
第3週	末梢神経系 ①	1.神経細胞 2.神経の興奮 3.シナプス伝導 4.神経筋の伝達					
第4週	末梢神経系 ②	1.運動単位 2.末梢神経の区分 3.脳神経 4.脊髄神経					
第5週	末梢神経系 ③	1.頸神経叢と腕神経叢 2.自律神経系 3.腰神経叢と仙骨神経叢					
第6週	中枢神経系 ①	1.中枢神経系 2.脊髄 3.脊髄反射 4.大脳基底核と大脳皮質					
第7週	中枢神経系 ②	1.大脳辺縁系 2.脳波 3.睡眠 4.学習と記憶					
第8週	中枢神経系 ③	1.間脳 2.脳幹 3.小脳 4.中枢神経系の伝導路					
第9週	中枢神経系 ④	1.錐体路 2.錐体外路 3.上行性伝導路					
第10週	感覚器系 ①	1.感覚の一般的性質 2.体性感覚 3.深部感覚 4.内臓感覚					
第11週	感覚器系 ②	1.臭覚 2.視覚 3.聴覚・平衡感覚 4.味覚					
第12週	循環器系 ①	1.心臓の構造 2.刺激伝導系 3.支配神経 4.心電図					
第13週	循環器系 ②	1.心音 2.血管の構造と機能 3.血液の循環 4.血圧					
第14週	循環器系 ③	1.水分代謝 2.血液の働き 3.血液細胞とその機能					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬について説明できる。 2.腎臓の構造と役割を説明できる。 3.血漿pH調節の意義と緩衝系について説明できる。 4.消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる。 5.ホルモン分泌の調節メカニズムを分類して説明できる。 6.エネルギー代謝を説明できる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。						
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	呼吸器系	1.呼吸器系の構造 2.メカニズム 3.外呼吸・内呼吸 4.呼吸の調節					
第2週	消化と吸収 ①	1.口腔中での消化 2.嚥下 3.胃中での消化 4.胃の運動					
第3週	消化と吸収 ②	1.小腸中での消化 2.腸中での 吸収 3.腸の運動 4.消化のまとめ					
第4週	腎臓と排泄	1.腎臓の構造 2.尿の生成 3.排尿					
第5週	内分泌系 ①	1.内分泌腺 2.下垂体ホルモン 3.甲状腺・上皮小体とホルモン					
第6週	内分泌系 ②	1.副腎とホルモン 2.膵臓とホルモン 3.性腺とホルモン					
第7週	生殖器系	1.性分化 2.男性生殖器 3.女性生殖器 4.受精と妊娠					
第8週	代謝と栄養 ①	1.栄養素					
第9週	代謝と栄養 ②	1.代謝 2.糖質代謝 3.脂質代謝 4.蛋白質代謝					
第10週	代謝と栄養 ③	1.エネルギー代謝と基礎代謝 2.体温調節					
第11週	生理学国家試験対策 ①	1.生理学総論 2.筋系 3.末梢神経系					
第12週	生理学国家試験対策 ②	1.中枢神経系 2.感覚器系 3.循環器系					
第13週	生理学国家試験対策 ③	1.呼吸器系 2.消化と吸収 3.腎臓と排泄					
第14週	生理学国家試験対策 ④	1.内分泌系 2.生殖器系 3.代謝と栄養					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	運動学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.運動器の構造及び機能について説明できる。 2.運動面軸・筋収縮の種類を説明できる。 3.各関節運動に必要な構造の仕組み及び筋を説明できる。 4.上肢・下肢・体幹の筋の起始停止及び神経支配を説明できる。			評価方法			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、四肢と体幹の骨・筋・靭帯の構造と機能の理解から生体力学と関節運動の関係へと理解を広げ、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎運動学(医歯薬出版)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	上肢帯と肩関節の運動 その1	◎ポイント:上肢帯と肩関節の動き 上肢帯の筋					
第2週	上肢帯と肩関節の運動 その2	◎ポイント:上肢帯と肩関節の動き 上肢帯の筋					
第3週	肘関節と前腕の運動 その1	◎ポイント:肘関節の動き 肘関節の筋					
第4週	肘関節と前腕の運動 その2	◎ポイント:肘関節の動き 肘関節の筋					
第5週	手関節と手の運動 その1	◎ポイント:手の骨、腱鞘					
第6週	手関節と手の運動 その2	◎ポイント:手関節と手の筋、手のアーチ 手の機能肢位、手の変形					
第7週	下肢帯と股関節の運動 その1	◎ポイント:股関節の動き、筋					
第8週	下肢帯と股関節の運動 その2	◎ポイント:股関節の動き、筋					
第9週	膝関節の運動 その1	◎ポイント:肘関節の動き					
第10週	膝関節の運動 その2	◎ポイント:肘関節の動き					
第11週	足関節と足の運動 その1	◎ポイント:足のアーチ					
第12週	足関節と足の運動 その2	◎ポイント:足のアーチ					
第13週	頸椎の運動	◎ポイント:頸椎					
第14週	胸椎と胸郭の運動	◎ポイント:胸郭の動き					
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 体幹・顔面の筋をそれぞれの運動と共に学び、臨床医学に結び付けて行く。 2. 姿勢の力学を学ぶことにより日常生活動作での転倒予防の基礎知識を身につける。 3. 歩行の基礎知識及び歩行分析による筋活動等の知識を修得する。 4. 姿勢制御理論、運動制御理論および運動学習理論が理解できる。 5. 生体力学を学び関節及び筋の作用との関連が理解できる。			評価方法			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、運動処方・姿勢・歩行と歩行及び動作分析を実習を通して理解し、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎運動学(医歯薬出版)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	腰椎の運動	◎ポイント:腰椎					
第2週	顔面及び頭部の運動	◎ポイント:顔面の筋					
第3週	姿勢	◎ポイント:重心 ◎ポイント:姿勢の異常					
第4週	歩行と歩行 その1	◎ポイント:運動学的分析					
第5週	歩行と歩行 その2	◎ポイント:運動学的分析実習					
第6週	小児及び高齢者の歩行	◎ポイント:小児の歩行 ◎ポイント:高齢者の歩行					
第7週	階段と踏み台の昇降	◎ポイント:運動学的分析実習					
第8週	運動と動作分析	◎ポイント:モーションキャプチャー					
第9週	体力と運動処方 その1	◎ポイント:運動処方					
第10週	体力と運動処方 その2	◎ポイント:運動処方実習					
第11週	生体力学の基礎 その1	◎ポイント:身体とてこ					
第12週	生体力学の基礎 その2	◎ポイント:モーメント					
第13週	生体力学の基礎 その3	◎ポイント:運動法則					
第14週	生体力学の基礎 その4	◎ポイント:仕事とエネルギー					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	整形外科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院の整形外科勤務34年	担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法士が関わる整形外科疾患と障害を説明できる。 2. 整形外科疾患の症状を説明することができる。 3. 各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。 4. 整形外科的疾患の診断方法の実際を説明できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患に対する診断・検査・治療の理論と手技を理解する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準整形外科学	使用器材	PC				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	骨						
第2週	関節						
第3週	骨・軟骨の損傷修復						
第4週	痛みの生理学						
第5週	診療						
第6週	検査						
第7週	保存療法・手術療法						
第8週	関節リウマチ						
第9週	慢性関節疾患						
第10週	四肢循環障害						
第11週	代謝性骨疾患						
第12週	骨腫瘍						
第13週	軟部腫瘍						
第14週	神経・筋疾患						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	解剖学Ⅰ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 人体を構成する骨格について理解できる。 2. 運動に関与する骨の種類とその形状を説明できる。 3. 関節の種類を説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学は、人体の正常な形態と構造を理解する分野である。解剖学が正常体の形状を研究するのに対して、その機能を扱うのが生理学であるが、解剖学と生理学の境界はないとも言われている。医学の基礎知識として重要な分野となる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	人体解剖学	使用器材	骨標本、PC等映写				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	骨格系総論 1						
第2週	骨格系総論 2						
第3週	骨（DVD）						
第4週	頭蓋骨 1						
第5週	頭蓋骨 2						
第6週	骨観察（スケッチ）その1						
第7週	脊柱・胸郭・骨盤の骨						
第8週	骨観察（スケッチ）その2						
第9週	上肢骨						
第10週	骨観察（スケッチ）その3						
第11週	下肢骨						
第12週	骨観察（スケッチ）その4						
第13週	上肢の連結						
第14週	下肢の連結						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 筋の種類とその作用を説明できる。 2. 筋の起始 と停止、作用を説明することができる。			評価方法			
授業概要	解剖学は、人体の正常な形態と構造を理解する分野である。解剖学が正常体の形状を研究するのに対して、その機能を扱うのが生理学であるが、解剖学と生理学の境界はないとも言われている。医学の基礎知識として重要な分野となる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	1 人体解剖学 2 筋学ハンドブック	使用器材	骨標本、PC等映写				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	筋学総論 1						
第2週	筋学総論 2（関節運動含む）						
第3週	頭部の筋（顔面筋、咀嚼筋、頭部筋膜） 1						
第4週	頭部の筋（顔面筋、咀嚼筋、頭部筋膜） 2						
第5週	頸部の筋（側頸筋、前頸筋、後頸筋、他） 1						
第6週	頸部の筋（側頸筋、前頸筋、後頸筋、他） 2						
第7週	背部の筋、胸部の筋、腹部の筋 1						
第8週	背部の筋、胸部の筋、腹部の筋 2						
第9週	上肢帯の筋、上肢への筋 1						
第10週	上肢帯の筋、上肢への筋 2						
第11週	上腕の筋、前腕の筋 1						
第12週	上腕の筋、前腕の筋 2						
第13週	大腿の筋、下腿の筋 1						
第14週	大腿の筋、下腿の筋 2						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	多職種連携の理解	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 職種連携の定義を述べることができる。 2. 多職種連携に参加する職種を挙げ、その役割を述べるができる。 3. 事例検討において、多職種連携の視点で、専門職の側面から分析し、考察できる。 4. 連携して働く多職種との協力に必要な知識、技術、態度を身につける。			評価方法			
授業概要	多職種連携の観点から、専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度について理解し修得するとともに、関係職種との連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できるような態度を身につける。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ケアマネジメントにおける多職種連携実践事例集	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第1部 多職種連携のための基礎知識 1. 介護支援専門員と地域包括ケアシステム						
第2週	第1部 多職種連携のための基礎知識 2. 介護支援専門員に求められるチームマネジメント						
第3週	第2部 多職種連携のための関連職種・サービスの知識 1 介護職との連携 2 リハビリテーション専門職との連携						
第4週	3 医療職との連携 4 看護職との連携						
第5週	5 薬剤とアセスメントのポイント 6 インフォーマルサービスなどの活用						
第6週	7 栄養アセスメントのポイント 8 口腔ケアアセスメントのポイント						
第7週	第3部 多職種連携によるケアマネジメント実践事例 1 脳血管疾患に関する事例						
第8週	2 認知症に関する事例 3 筋骨格系疾患と廃用症候群に関する事例						
第9週	4 内臓の機能不全に関する事例 5 看取りに関する事例						
第10週	6 リハビリテーションおよび福祉用具に関する事例						
第11週	7 入退院時等における医療との連携に関する事例						
第12週	8 家族への支援の視点が必要な事例						
第13週	9 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例						
第14週	10 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
裏務経歴		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①中枢神経系の構造と働きを理解する。 ②末梢神経系、感覚器系、内分泌器官の知識と理解を深めること。 ③日常に見られる感覚・内分泌の働きを説明できること。			評価方法			
授業概要	解剖学Ⅲは作業療法を学ぶ上での基礎となる人体の構造(解剖)と働き(生理)を関連付ける学問である。本科目では特に大脳新皮質、間脳、脳幹、小脳、脊髄などのいわゆる脳・脊髄に分類される中枢神経系と、脊髄神経から派生する末梢神経系および感覚器系についてそれぞれの構造と機能を重点的に学習します。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	人体解剖学	使用器材	PC等、臓器模型				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	神経学総論	神経系の構成、素材、微細構造、変性と再生などについて学びます。					
第2週	脳室系・髄膜・髄液	中心管と脳室系、脊髄と脳の被膜、脳脊髄液などについて学びます。					
第3週	脳(1)	大脳皮質の諸中枢とその機能について学びます。					
第4週	脳(2)	脳の内部構造について学びます。					
第5週	脳(3)	大脳半球、間脳と下垂体、中脳、延髄などについて学びます。					
第6週	中枢神経系の脈管	脳動脈について学びます。					
第7週	末梢神経系(1)	脳神経(12対の神経の名称と機能)について学びます。					
第8週	末梢神経系(2)	脳神経(各部位の構造)について学びます。					
第9週	末梢神経系(1)	脊髄神経について学びます。					
第10週	末梢神経系(2)	脊髄神経について学びます。					
第11週	末梢神経系(1)	自律神経系(交感神経・副交感神経)について学びます。					
第12週	末梢神経系(2)	自律神経系(伝導路)について学びます。					
第13週	神経の伝導路(1)	反射路、求心性伝導路について学びます。					
第14週	神経の伝導路(2)	遠心性伝導路(錐体路・錐体外路)について学びます。					
第15週	感覚器	外皮の感覚について学びます。					
授業外学習指示等	臨床における基礎知識であり、国家試験でも多く出題されます。授業後の復習が重要です。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	解剖学Ⅳ	授業時期	後期→前期	授業時数	30
裏務経歴		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①呼吸器、循環器、消化器、泌尿器の構造と機能について理解できる。 ②各器官における生理学的な反応を理解できる。 ③運動における呼吸循環系の役割を理解できる。			評価方法			
授業概要	医学系専門職として作業療法を学ぶ上で基礎となる、生命の維持に非常に重要な働きをもつ呼吸器と循環器や、消化器、泌尿器の構造と機能についての知識とその役割を学び、生体内で起こる生理学的反応への考察力を高めることを目的とする。さらに運動における呼吸循環系の役割に対する理解を深めることも目的とする。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	人体解剖学	使用器材	PC等、臓器模型				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	脈管系総論	血管系とリンパ管系について学びます。					
第2週	循環(1)	心臓の構造、肺循環、体循環について学びます。					
第3週	循環(2)	体循環の血管系について学びます。					
第4週	呼吸(1)	肺、気管、気管枝について学びます。					
第5週	呼吸(2)	肺活量、発声器官について学びます。					
第6週	消火器(1)	口腔、歯、口蓋、舌、唾液腺、扁桃、咽頭、食道について学びます。					
第7週	消火器(2)	胃について学びます。					
第8週	消火器(3)	小腸について学びます。					
第9週	消火器(4)	大腸について学びます。					
第10週	消火器(5)	肝臓について学びます。					
第11週	消火器(6)	膵臓について学びます。					
第12週	泌尿器(1)	腎臓について学びます。					
第13週	泌尿器(2)	泌尿器官について学びます。					
第14週	リンパ系(1)	リンパ管系について学びます。					
第15週	リンパ系(2)	脾臓、胸腺について学びます。					
授業外学習指示等	臨床における基礎知識であり、国家試験でも多く出題されます。授業後の復習が重要です。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	作業療法評価学Ⅱ	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①作業療法評価における検査測定の意義を述べることができる。 ②作業療法に必要な検査の知識、技術を習得する。 ・形態測定 ・感覚検査 ・反射検査 ・姿勢反射検査 ・脳神経検査 ・摂食 ・嚥下検査 ・上肢機能検査			評価方法 期末試験 80% 授業態度 20% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。						
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	使用器材	教科書、各種検査器具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	評価学の基礎(1)	作業療法と評価について、意義や種類など学びます。					
第2週	評価学の基礎(2)	再評価と効果判定、並びに記録・報告について学びます。					
第3週	形態測定(1)	身長、四肢長、周径について学びます。					
第4週	形態測定(2)	身長、四肢長、周径について実技が出来るようになります。					
第5週	感覚検査(1)	表在感覚を理解して、実技が出来る。					
第6週	感覚検査(2)	深部感覚・複合感覚を理解して、実技が出来る。					
第7週	反射検査(1)	深部腱反射の意義と目的を理解して、実技が出来る。					
第8週	反射検査(2)	表在反射・病的反射の意義と目的を理解が出来る。					
第9週	姿勢反射検査(1)	姿勢反射検査の意義と目的を理解して実技が出来る。					
第10週	姿勢反射検査(2)	BBS(Berg Balance Scale)、FR(Functional Reach)、TUG(Timed Up Go Test)を理解と実施できる。					
第11週	脳神経検査	脳神経検査を理解して実施できる。					
第12週	摂食・嚥下機能検査	摂食・嚥下機能検査について理解できる。					
第13週	上肢機能検査(1)	上肢機能検査の意義と目的の理解、検査の種類を理解できる。					
第14週	上肢機能検査(2)	STEF(Simple Test for Evaluating Hand Function)、Purdue Pegboard Test、MFT(Manual Function Test)が実施できる。					
第15週	上肢機能検査(3)	STEF(Simple Test for Evaluating Hand Function)、Purdue Pegboard Test、MFT(Manual Function Test)が実施できる。					
授業外 学習指示等	作業療法において、治療・指導・援助の根拠となる検査・測定である。知識と理解、技術習得に必要な取り組む姿勢が求められる。事前の学習、習得した物は、普段でも繰り返し練習をしておくこと。						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	作業療法管理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①作業療法士に必要なマネジメントを理解できる。 ②作業療法を取り巻くあらゆる諸制度や環境を理解できる。 ③作業療法臨床実習を理解できる。 ④作業療法士としてのキャリア開発に理解が出来る。			評価方法			
授業概要	作業療法士を目指すうえで、現在の多様なニーズとサービスを把握しておく必要がある。また、社会保障制度の変革や社会情勢の変化などで対象者のニーズや権利に対する意識も変化してきている。これらに対し、組織や業務の管理運営を理解し、質の高い作業療法を提供できるようになることを目的とする。			期末試験 80% 授業態度 20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	作業療法管理学入門	使用器材	PC等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	作業療法とマネジメント	マネジメントの資源とその特性、PDCAサイクルの要素、目標設定の重要性等を理解し、作業療法におけるマネジメントを考察する。					
第2週	組織の成り立ちとマネジメント	組織に対する理解、病院組織における作業療法の役割や部門の労務管理を理解する。					
第3週	情報のマネジメント	情報の種類、階層性の特徴などを理解し、作業療法業務に関連する情報の取り扱う際の注意点を理解する。					
第4週	医療サービスのマネジメント	サービスとは何か、医療サービスさらに作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する。					
第5週	医療安全のマネジメント	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解し、作業療法の実施を考察する。					
第6週	作業療法業務のマネジメント①	人材育成、職場環境の特性、作業療法業務の経済性などについて理解する。					
第7週	作業療法業務のマネジメント②	情報、タイムマネジメント、ストレスマネジメント等について理解する。					
第8週	作業療法業務のマネジメント③	作業療法実践について、地域や災害時、行政機関などでの作業療法士の役割を理解する。					
第9週	作業療法の役割と職域(1)	作業療法の法的根拠や関連する法律などについて理解する。					
第10週	作業療法の役割と職域(2)	職能団体の意義と作業療法の領域 などについて理解する。					
第11週	作業療法士の職業倫理	倫理的態度、倫理的ジレンマ、患者・対象者（児）の権利と尊厳について理解する。					
第12週	作業療法を取り巻く諸制度	作業療法が働く施設における制度を理解し、地域のあり方を理解する。					
第13週	作業療法臨床実習の理解と管理体制(1)	臨床実習の位置づけ、目標と評価、求められる学生の資質などについて理解する。					
第14週	作業療法臨床実習の理解と管理体制(2)	指導体制と指導方法、求められる学生の資質などについて理解する。					
第15週	キャリア開発	実践知、資格認定制度の仕組みを理解し、自身のキャリア開発を考察する。					
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当箇所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	心理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:基礎心理学の理解 2:心理学用語の理解 3:リハビリテーション心理学の理解 4:その他			評価方法			
授業概要	基礎心理学について、基礎的、歴史的な変遷を学び、科学的、客観的学問としての理論等を項目ごとに学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハ ベーシック心理学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	心理学とは 心理学の歴史						
第2週	感覚 知覚						
第3週	情動・動機づけ						
第4週	注意・認知						
第5週	思考						
第6週	感情・動機付け						
第7週	パーソナリティ						
第8週	記憶						
第9週	学習・言語						
第10週	思考						
第11週	発達 その1						
第12週	発達 その2						
第13週	リハビリテーション心理学(障害受容)						
第14週	試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国家試験問題を少しずつ行う。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 真智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1: 臨床心理学の構造 2: 防衛機制、臨床心理支援の理解 3: 心理アセスメント・心理検査の理解 4: 各種代表的心理療法についての理解 5: その他			評価方法			
授業概要	心理学とは何かを基礎的、理論的に学びながら作業療法士に必要な心理学の要点を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハ ベーシック心理学	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	臨床心理学とは 臨床心理学の歴史						
第2週	職域と社会的連携 公認心理師						
第3週	防衛機制						
第4週	臨床心理支援のキー概念						
第5週	心理アセスメント 心理検査						
第6週	介入方法① 行動療法						
第7週	認知行動療法						
第8週	催眠療法・精神分析療法						
第9週	内観療法・芸術療法						
第10週	箱庭療法・遊戯療法						
第11週	自律訓練・ゲシュタルト療法						
第12週	心理劇・交流分析						
第13週	来談者中心療法						
第14週	集団精神療法						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	心理療法については担当を決めグループ発表を予定しています。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:リハビリテーション医学の変遷、歴史、現状についての理解 2:臨床医学お発展と障害学についての理解 3:リハビリテーション臨床の主な疾患について治療からリハビリテーションまでの流れの理解			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学に携わるプロとして、その変遷、概要、各種障害、疾患のリハビリテーションの流れ等を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準 リハビリテーション医学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	リハビリテーション医学とは（理念の変遷）						
第2週	障害学						
第3週	脳血管障害 ①						
第4週	脳血管障害 ②						
第5週	脊髄損傷 ①						
第6週	脊髄損傷 ②						
第7週	脊髄小脳変性症						
第8週	パーキンソン病						
第9週	脳性麻痺						
第10週	筋ジストロフィー						
第11週	末梢神経損傷・多発性筋炎						
第12週	多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症						
第13週	関節リウマチ・変形性関節症						
第14週	二分脊椎						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	各自疾患ごとに復習をしてください。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	病理学/内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.:病理学総論において各項目ごとの用語と内容の理解 2:各内科疾患の経過と治療の理解 3.病理内科における国試問題への取り組み			評価方法			
授業概要	国家試験出題基準内容及び臨床場面で必要な知識を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 病理学及び内科学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	病理学総論 : 病因論、退行性病変						
第2週	病理学総論 : 進行性病変						
第3週	病理学総論 : 循環障害						
第4週	病理学総論 : 免疫・炎症・感染症						
第5週	病理学総論 : 腫瘍						
第6週	病理学総論 : 先天性異常・奇形						
第7週	病理学各論 :まとめ						
第8週	循環器疾患 I 循環器疾患						
第9週	呼吸器疾患 I 呼吸機能と閉塞性換気障害他						
第10週	消化器疾患 I 消化器解剖と上部消化管疾患						
第11週	肝・胆・膵疾患 肝疾患と肝機能/代謝性疾患						
第12週	内分泌疾患						
第13週	腎・泌尿器疾患						
第14週	感染症疾患 遺伝性疾患						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国試問題を項目ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	保健体育講義	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.WHOの健康に関する概念の理解 2.自分の食生活についての傾向を理解し、健康的な食生活を考える 3.高齢社会について考え、自分の考えをまとめる			評価方法			
授業概要	健康の保持増進に努め、自ら運動、休養、栄養（食育）の健康の三原則を学び、実践できる。			期末試験 90% レポート 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション 健康って何？						
第2週	現代の健康とは						
第3週	食と健康						
第4週	運動と健康						
第5週	健康寿命と平均寿命、平均余命、死因の変動						
第6週	人口構成						
第7週	超高齢化社会を生きる。						
第8週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	各自で食事内容調査を行いますので記録を指示します。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	精神医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科の疾患について理解することができる。 2 精神科作業療法で関わることが多い統合失調症について知識を深める。 3 作業療法における精神疾患との関わり方を理解することができる。			評価方法			
授業概要	精神医学とは何か。精神障害者を理解するために、精神疾患と精神症状を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	現代臨床精神医学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	精神医学概論と基礎知識(精神科の病)について。オリエンテーション						
第2週	精神医療とは何か 精神医学の概念について学ぶ(歴史的背景を踏まえて)						
第3週	症状の成り立ち(外因・内因・心因について学習する)。また心身相関について学習する。						
第4週	睡眠と覚醒のリズムについて学習する人体における睡眠の必要性						
第5週	精神療法について(筋肉応答法含む)精神科臨床場面において果たす役割について学ぶ。						
第6週	精神科における薬物療法の作用と副作用について学ぶ。(発展した歴史的背景含む)						
第7週	統合失調症について概念、歴史、疫学、成因について学ぶ。						
第8週	統合失調症の経過について症状の推移について学ぶ。(予後も含む)						
第9週	統合失調症の治療について。基本方針、治療の概略について学ぶ。						
第10週	統合失調症におけるリハビリテーションの概要について学ぶ。						
第11週	統合失調症まとめ。アウトプットを繰り返し、知識の定着を図る。						
第12週	外因性精神病について(認知症の概要、中核症状、周辺症状とは)学ぶ。						
第13週	自らの精神保健(治療者自身のメンタルヘルスの重要性)						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義に参加する前は、事前に配布したスライドに目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	社会福祉士の資格を持ち、病院での勤務歴10年	担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 社会福祉の知識を深め、生活モデルと医学モデルの違いについて学ぶ。 2 社会福祉の制度、政策を理解することで、対象者の理解を深める際に役立てる。 2 社会福祉的視点を身に付けることで、生活のしづらさを理解することに繋げる。			評価方法			
授業概要	社会福祉制度は、私たちの生活を支える身近な制度であることを理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	よくわかる社会福祉 第10版	使用器材	パソコン、パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション(なぜ社会福祉を学習するのか)						
第2週	社会福祉の基礎概念(社会福祉と言う考え方)について学ぶ。						
第3週	社会福祉をとりまく状況(社会福祉における価値と理念、実践課題)について、学ぶ。						
第4週	社会福祉の歴史と展開(バイステックの7つの原則について)学ぶ。						
第5週	ノーマライゼーション(考え方と展開)について学ぶ。また、定義を学ぶことにより専門性を高める。						
第6週	生活保護法(概要、歴史、現状)について学び、臨床場面に反映させる。						
第7週	社会福祉の援助と方法(面接場面、ケースワーク、グループワークの違い)について学ぶ。						
第8週	介護保険の概要と歴史的背景について学び、臨床場面に反映させる。						
第9週	障害の概念と分類について学び。 (ICIDHとICFの違い。臨床場面への応用。)						
第10週	高齢者福祉の現状と問題点について知識を深める。						
第11週	障害者福祉の現状と問題点について知識を深める。						
第12週	リハビリテーションとは何か(意義、源流、分野)について学ぶ。						
第13週	これからの社会福祉の課題。作業療法士として何が出来るかを学ぶ。						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義に参加する前は事前に配布した資料に目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	集団作業療法治療学	授業時期	後期→前期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴8年	担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法場面における集団の活用と効果について理解できる。 2 集団を活用することによるグループダイナミクスについて理解できる。 3 集団を治療に活用する醍醐味を理解できる。			評価方法			
授業概要	作業療法における治療方法の一つであるグループダイナミクス(集団力動)の応用について、集団を治療に活用する基礎的な知識を理解し学習する。集団体験としてのグループ活動や演習など様々な活動の体験を臨床に活用できる実践力を養う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと集団・場 第2版 三輪書店	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	イントロダクション: 作業療法の方法としてのグループダイナミクス(集団)の活用						
第2週	1、集団・場: ひとの集まりとしての集団(集団意味、構造)について理解する。						
第3週	2、ひとと集団: 社会の中での集団の意味・目的について理解を深める。						
第4週	3、生活技能と集団: 生活技能、対人発達技能の発達における集団の役割について学ぶ。						
第5週	4、集団の利用: 集団と療法～効果(治療のける集団の活用と効果)について理解する。						
第6週	4、集団の利用: 構造を理解し、専門職として必要に応じ、集団を活用することを学ぶ。						
第7週	5、パラレルな場とその活用(パラレルな場を治療に活かす意味)について学ぶ。						
第8週	6、作業療法と集団・場(対象者に合わせた意図的な場の活用)について学ぶ。						
第9週	7、集団プログラムの計画と評価について理解を深める。						
第10週	8、作業療法における集団プログラムの実際 I						
第11週	作業療法における集団プログラムの実際 II						
第12週	グループワーク I (フィードバックを行い、改善是正を目指す。)						
第13週	グループワーク II (他者のプレゼンに対して、建設的な討論が出来ることを目指す)						
第14週	総括(講義の振り返り要点のまとめ、期末試験対策)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の中ではプレゼンも実施します。能動的かつ積極的に参加をすることを期待します。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	統計学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 office word、office excel、office powerpoint等の基本的なパソコン操作を習得する。 2 統計の基本的な考え方を理解する。 3 統計の手法を理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに従事する医療関係者が、研究を行う際に、統計は避けて通れないツールである。パソコン操作に加え、統計の基本的な考え方や手法を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	すぐできる！リハビリテーション統計	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	PC実習室の利用について。 office Word の操作方法						
第2週	office Excel の操作方法						
第3週	office Powerpoint の操作方法						
第4週	統計とは？ 統計の概要を理解する						
第5週	なぜ統計が必要なのか？ 母集団・標本を理解する						
第6週	仮説検定、P値、有意差について理解する						
第7週	信頼区間について理解する						
第8週	データの尺度、標本を理解する						
第9週	正規分布、平均値、中央値、標準偏差を理解する						
第10週	パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定を理解する						
第11週	3標本以上のパラメトリック検定、ノンパラメトリック検定を理解する						
第12週	相関と回帰を理解する						
第13週	研究の種類を理解する						
第14週	論文抄読(各自調べて用意してくること)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	分からない点はそのままにせず、その都度質問をすること。適宜復習を行っていくこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	一般臨床医学	授業時期	後期	授業時数	30
裏務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	PT・OTとして必要な医学一般に関する知識を修得する。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている「一般臨床医学」の基礎的知識を理解する。具体的には、心肺蘇生をはじめとする救急医療、外科及び脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科における代表的疾患の病態と標準的な治療法を学習する。また、老年医学についても学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための一般臨床医学	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	救命救急医療(教科書第1章)						
第2週	救命救急医療2(教科書第1章)						
第3週	外科総論1(教科書第2章)						
第4週	外科総論2(教科書第2章)						
第5週	脳神経外科概論1(教科書第3章)						
第6週	脳神経外科概論2(教科書第3章)						
第7週	脳神経外科概論3(教科書第3章)						
第8週	皮膚疾患1(教科書第4章)						
第9週	皮膚疾患2(教科書第4章)						
第10週	泌尿器・生殖器疾患1(教科書第5章)						
第11週	泌尿器・生殖器疾患2(教科書第5章)						
第12週	婦人科・産科・眼疾患(教科書第6、7章)						
第13週	耳鼻咽喉科疾患(教科書第8章)						
第14週	老年医学(教科書第9章)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。確認問題は必ず復習を行うこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	作業療法評価学Ⅰ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で実習生指導経験5年	担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な評価に関する知識を深める。 2 作業療法士に必要な評価技術を習得する。			評価方法			
授業概要	評価の基礎と身体障害領域での基本的な評価を学びます。 (面接、観察、バイタルサイン測定、関節可動域測定、徒手筋力検査法、その他の評価、評価の記録)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法評価学 他	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター、マイク、治療台				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	評価とは 面接・問診・観察を理解する						
第2週	バイタルサインを理解する(血圧、呼吸、体温等)						
第3週	関節可動域測定とは 講義						
第4週	関節可動域測定 実技 上肢①						
第5週	関節可動域測定 実技 上肢②						
第6週	関節可動域測定 実技 下肢①						
第7週	関節可動域測定 実技 下肢②						
第8週	関節可動域測定 実技 頸部・体幹等						
第9週	徒手筋力検査法とは 講義						
第10週	徒手筋力検査法 実技 上肢①						
第11週	徒手筋力検査法 実技 上肢②						
第12週	徒手筋力検査法 実技 下肢①						
第13週	徒手筋力検査法 実技 下肢②						
第14週	徒手筋力検査法 実技 頸部・体幹等						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	座学・実技ともに適宜復習を行うこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	リハビリテーション栄養学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な生物学、化学、栄養学の基礎知識を修得する。 2 実践的なリハビリテーション栄養学の基礎知識を修得する。 3 作業療法士に必要な栄養アセスメントの知識を修得する。			評価方法			
授業概要	生物学と化学をベースとして、栄養学の基礎知識を理解する。そして、実践的なリハビリテーション栄養学の知識を習得する。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	なぜ生化学・栄養学を学ぶのか（教科書 第1章）						
第2週	生化学・栄養学に必要な基礎化学（教科書 第2章）						
第3週	蛋白質とアミノ酸（教科書 第3章）						
第4週	酵素・ホルモン（教科書 第4章）						
第5週	糖質・脂質の代謝（教科書 第5章）						
第6週	ビタミン（教科書 第6章）						
第7週	消化と吸収（教科書 第7章）						
第8週	エネルギー代謝（教科書 第8章）						
第9週	運動と栄養（教科書 第9章）						
第10週	リハビリテーションと栄養（教科書 第10章）						
第11週	栄養評価（教科書 第11章）						
第12週	主な病態の栄養管理（教科書 第12章）						
第13週	静脈・経腸栄養法（教科書 第13章）						
第14週	栄養と摂食嚥下（教科書 第14章）						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。適宜復習を行うこと。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	作業療法概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での勤務経験20年	担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法士の多岐に渡る仕事内容について全体像が理解できる 2. 日本や世界の作業療法の源流から現在に至るまでの歴史について思想や理念、活動の経緯と今後の「作業療法」のもつ可能性を理解することができる 3. 領域ごとの具体的な活動を学習し、作業療法が多様な障害や健康増進に貢献できることを理解する			評価方法			
授業概要	作業療法の活動の広がり、定義、歴史、作業療法の実際の活動の場、作業療法過程など作業療法全体を理解する。作業療法が健康増進と対象者の主体的な生活への援助ができることを学ぶ。			期末試験 80% レポート等 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	作業療法概論第3版 協同医歯薬出版	使用器材	配布資料等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	イントロダクション:ある身体障害者の作業療法のかかわり:事例を通じて考える。 作業療法の紹介DVD:生活に困難が生じた対象者にどのような援助ができるのか学ぶ						
第2週	第1章 作業療法の実践領域 :様々な実践領域に作業療法士の活躍の場がある 入院から地域生活まで多彩な作業療法のサービス内容について学ぶ						
第3週	第2章 作業療法とは 作業療法の定義にある「主体的な生活の獲得を図るため」の援助について作業療法士の具体的な活動を通じて学ぶ						
第4週	第2章 V. 生活と作業:人の生活は環境との相互作用で成り立っている 「屋外での車いす駆動・介助体験」の実施計画案をグループで作成する						
第5週	屋外での車いす駆動・介助体験(公共交通機関の利用や実際の市街地移動)						
第6週	「車いす体験」発表 第2章 II. 作業の定義 III作業の治療的意味について作業療法の視点で学ぶ						
第7週	第2章 作業療法の手段＝作業は「人が生きて行う目的活動のすべて」とみなしている。 作業の分類や治療的な意味、具体的な活用の仕方について学ぶ						
第8週	第4章 作業療法の対象:障害とは何か、どのように理解するのかを考え記述するための開発された ICF(国際生活機能分類)の理解と作業療法での活用について学ぶ						
第9週	第3章 作業療法の歴史 I. リハビリテーション医療の歴史 社会的な要請を背景に発展してきた歴史的な変化を振り返る。現在のそして将来の作業療法について学ぶ						
第10週	第3章 作業療法の歴史 II. 日本の作業療法:日本で作業療法(士)が誕生してから50年余りたった。医療専門職として歩みを学ぶとともに今後の日本の医療構造の変革について学ぶ						
第11週	第3章 III. 世界の作業療法の歴史:手段・思想・専門職としてのルーツの3つの観点から世界の作業療法の歴史と背景を学ぶ						
第12週	第5章 作業療法の実際:McCollのまとめた作業療法の基本的な3つの原理を理解する。 作業が心身に及ぼす良い影響を根拠を示す代表的な理論について学ぶ						
第13週	第5章 III領域別、IV病期別、V圏域別作業療法の実際: 作業療法の活躍の場は急速に広がっている。各領域での作業療法の目的や具体的な活動について学ぶ						
第14週	第6章 作業療法過程: 作業療法の実際を理解するために「作業療法の過程」を学ぶとともに、医療専門職として重要な留意事項について学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	概論とは全体のあらましを要約して理解することです。作業療法について初めて手にする「専門書」作業療法概論で作業療法士の仕事と関係のある知識について座学で学習することに加え、動画やレポート、車いす体験のグループワークなどの体験を通じて作業療法を深く理解できるように積極的に取り組みましょう。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	基礎作業学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での勤務経験20年	担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法の「手段」「目的」である「作業」について活用の仕方を理解できる 2. 「作業」を体験し身体・精神機能、社会参加について分析する力をつける 3. 作業療法士は、対象者を1人の人として捉え援助する。臨床の知(クリニカルリーズニング)について理解し活用できる			評価方法			
授業概要	作業療法士にとって「作業」について学ぶことは、職業生命の基礎である。「作業」に焦点を当て、対象者の「健康」や「主体的な生活の獲得」のための作業の適応の仕方と治療実践について、基礎知識を学び演習等を通じて臨床へ活用できる技術を修得する。			期末試験 80% レポート・学習態度など 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと作業・作業活動 三輪書店	使用器材	視聴覚機器・配布資料その他演習に必要な用品				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	イントロダクション:生活の回復、再建がなされる「作業」について学ぶ 配布資料:当事者からみた作業療法の魅力						
第2週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメントの自己活用						
第3週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメント用いて演習						
第4週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について作業療法での生活行為マネジメントの用いられ方						
第5週	2 ひとと作業: 「作業」を生活、脳、身体、こころ、コミュニケーションなど切り口から、人にとっての作業とは、目的と意味を持って行われる作業をみる視点を学ぶ						
第6週	3 作業の知: 作業そのものの特性や意味、ひとが作業をすること、効用についてケース「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシートを通して学ぶ						
第7週	3 作業の知: 「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシート発表「作業のアフォードするもの」について学ぶ						
第8週	6 作業の技: 治療や手段としての作業の利用、作業の選択、「ことばと作業」の活かし方、対象者と治療効果を高める作業療法士との関わり方について学ぶ						
第9週	7 技を育む: 作業が生きる条件—作業療法士自身の治療的活用 クリニカルリーズニングとは何か学ぶ、治療場面で演習						
第10週	5 作業を分析する: 「作業演習 ①」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第11週	5 作業を分析する: 「作業演習②」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第12週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 利き手交換(書字)、片麻痺での更衣動作演習						
第13週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 動作分析: DVD脳卒中(重度片麻痺、感覚障害、半側空間無視、注意障害)						
第14週	全体総括: 作業療法の視点として「人・環境・作業」モデルを学ぶ 試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	作業療法士は対象者の個別性にあわせて、様々な問題と一緒に取り組んで解決していくことが求められます。座学はもちろんのこと、課題に主体的に取り組み、行動する習慣を身につけましょう						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 多様な公衆衛生活動があり「健康」が守られてることを理解する 2. 環境問題や各分野に特有な課題に対応する具体的活動について知識を深める 3. 身近にある健康問題に対して関心を持ち、積極的に情報収集し行動することができる			評価方法 期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	環境や行動を社会的に整えて人の健康を守る保健医療活動である公衆衛生の基本的な知識を学習する。今後、社会の変化に伴い変化する公衆衛生活動を作業療法士として活用できる視点と能力を培う。						
教科書等	わかりやすい公衆衛生第3版 ヌーベルヒロカワ	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	1. 公衆衛生とは：健康には多くの要因が関係しており「みんなの健康を、みんなで守る、保健医療の組織的な営み」公衆衛生とは何かについて学ぶ						
第2週	2. 健康と環境、疫学的方法：人の健康に影響する要因と、集団検診と集団の健康事象について扱う疫学の重要性について学ぶ						
第3週	3. 健康の指標：集団の健康水準を測定する尺度の総称であり、良く使用されているものについて指標の意味するもの、見方などについて学ぶ。						
第4週	4. 感染症とその予防：感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について学ぶ。代表的な感染症について流行状況や感染予防対策を学ぶ						
第5週	5. 食品衛生と栄養：食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに我が国の食品衛生の制度を理解する						
第6週	6. 生活環境の保全：現代の生活が地球環境に何をもたらしたかを理解する。地球温暖化に代表される環境の変化が人々の健康に与える影響について学ぶ						
第7週	7. 医療・介護の保障制度：日本で病院を受診したり、介護サービスを安心して受けることができる仕組みについて学ぶ						
第8週	8. 地域保健活動（ヘルスサービスの構造）：地域の住民が適切なヘルスサービスを受けることができる仕組みやシステムについて学ぶ						
第9週	9. 母子保健：少子化が急速に進行する中で、我が国の現状と今後の課題について、母親への支援、子どもの健全な発達を保障できるか、今後の母子保健サービスの方向について学ぶ						
第10週	10. 学校保健：学校保健では児童・学生の成長を支援していく責任がある。学校保健制度の法的基盤をもとに、学校保健・安全の制度の構成と内容について学ぶ						
第11週	11. 生活習慣病：がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が日本人の最大の死因となっており、国をあげて取り組んでいる健康づくりについて学ぶ						
第12週	12. 難病対策：難病の定義と「共生社会の実現」という難病対策の基本理念を理解する 13. 健康教育とヘルスプロモーション（自らの健康をコントロールし改善するプロセス）の概念や取り組みについて学ぶ						
第13週	14. 精神保健福祉：精神障害者の人権尊重が重視され「入院医療から地域生活中心へ」改革が進む施策について学ぶ。自殺や依存症など新たな課題についても学ぶ						
第14週	15. 産業保健：産業保健の目的と働く人を保護する枠組みを理解し、労働衛生管理の仕組みである3管理と労働衛生教育の概略を学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	「健康は自分自身の財産であるとともに、社会資源である」ということがヘルスプロモーション（健康増進活動）の思想です。誰もが健康に暮らしたいと考えています。自分の健康に置き換えることで公衆衛生活動の重要性を理解することができるでしょう。具体的な事例や実際の事件・事故を通じて理解が深まるように学習していきます						

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	文章構成	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験		担当	小淵 由美子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 基礎力(語彙・文法)、読解力(意味理解・文章構成・資料分析)、作成力(通信文・意見文)について練習問題等を通じて基礎的な文書構成ができる 2. 適切な語句の使用した論理的な文章で自分の考えが表現ができる 3. 作業療法の実践において論理的思考を表現できる記録の重要性を理解できる			評価方法			
授業概要	「根拠に基づく作業療法」が求められる臨床において、作業療法の際に作成する評価、記録、報告書で適切に対象者の状況を表現する能力は必要不可欠である。基礎から、臨床に活用できる文章構成について学ぶ			テスト・レポート等：30% 期末試験：70% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	文章力が身につく本、文章検テキスト	使用器材	PC、配布資料その他				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	作業療法における文章構成の重要性について配布資料を参考に学習します 資料：臨床家のための実践と報告のすすめ：入門編 第1回「作業療法記録・報告書の書き方」						
第2週	文章の基礎力：語句と文章の組み立てについて学習します(簡単な小テストを実施) 慣用句や・四文字熟語についての知識も深めます						
第3週	文章の読解力：文章作成には、書く力があればいいというのではなく、情報を読み解く力(読む力)が必要です。意味理解・文章構成について学習します(簡単な小テストを実施)						
第4週	文章の読解力：実際の文章を読んで要旨を把握してみましよう(感想文の作成) 「すぐれた文章とは」について理解を深めます						
第5週	演習：自分の考えを伝え、協議するグループワークでコミュニケーションスキル(話す・聞く)の向上を図ります						
第6週	文書作成力：正確に情報を相手に伝えるための書く力や通信文(手紙の型)について学習します(簡単な小テストを実施)						
第7週	文章作成力：相手に自分の考えを理解し納得してもらえる意見文には根拠となる事実が必要です。必要な技術や考える力について学習します 演習：事実を集めるための方法(ブレイン・ストーミング)						
第8週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義で簡単な小テストを実施します。もし間違っても学習すればできるようになりますから心配しないで取り組みましょう。他人の文章を読み取る力や文章を作成する能力はコミュニケーション能力とも一致します。意見発表やグループワークは積極的に行動するようにしましょう。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	リハビリテーション概論	授業時期	後期	授業時数	30
-------	---------------	-----	-------------	------	----	------	----

実務経験	脳疾患、リハビリ系の治療経験有り	担当	小淵 由美子	印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 「人間的復権」という視点から、リハビリテーションの思想や活動を理解できる 2. リハビリテーションが社会的に認知され現在に至るまでの歴史や経過を事例等を通じて理解し、制度や専門職種の役割などを理解できる 3. 多様な障害に対してリハビリテーションはチームアプローチとして実施されており、その中での作業療法士の役割や活動を理解することができる				評価方法			
授業概要	本来「リハビリテーション」のもつ意味を理解し、疾患構造の変化と高齢者社会の進展の中で、リハビリテーションの専門家として対応するために、医学的リハビリテーションを中心としてリハビリテーションの理念、歴史の変遷、その種類について学ぶ。また、障害の種類や障害のレベル、社会復帰に向けたリハビリテーション過程学ぶ。更に障害者が地域で生活するために必要とされる教育的、福祉的、職業的リハビリテーションについて学ぶ。				期末試験 80% 課題・レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	入門リハビリテーション概論 リハビリテーションの思想	使用器材	配布資料等					
週	授業項目・内容						実施結果	
第1週	イントロダクション 第7版の序:リハビリテーションの基本理念として(1)障害者の自立と社会経済活動への参加の支援がある。「障害者」「自立」とは何かを学ぶ							
第2週	第1章 リハビリテーションとは:基本理念である自立と自助との違いは何か「個人モデル」から「社会モデル」へ障害のパラダイム(枠組)転換について学ぶ							
第3週	第2章 病気と障害 :現在日本で高齢化にともない介護が社会問題となっており、介護を必要とする原因の1つである認知症のケアについて歴史的な経緯を学ぶ							
第4週	第2章 病気や障害を持ちながらも地域社会で本人の望む暮らしを送れる社会にするために必要なリハビリテーションを支える制度について学ぶ							
第5週	第3章 ハビリテーションとリハビリテーション「若者も高齢者も健常者も障害者も普通に生活するための共に生きる社会が正常である」ノーマライゼーションの原理について学ぶ							
第6週	第4章 リハビリテーションと心理 :リハビリテーションの過程では心身の状況を把握する面接と多くの心理検査が利用されている(認知機能を検査するスクリーニング検査の演習)							
第7週	第4章 心理的適応の過程:障害を受けた衝撃として不安・怒り・恐怖は当然の心理反応であるが時にリハビリテーションの進行にも影響する。障害受容について学ぶ							
第8週	第5章 リハビリテーションの諸問題:「医学的リハビリテーションと障害福祉サービス」疾病の自然経過と医学的リハビリテーションと機能的予後について学ぶ							
第9週	第6章 リハビリテーションの過程:評価とプログラムについて、医学的リハビリテーションの進め方におけるアセスメントの重要性やプログラムの作成までの過程について学ぶ							
第10週	第6章 リハビリテーションの過程 :チームアプローチと専門職:医学的リハビリテーションの過程では複数の専門家によるチームアプローチが行われている。専門職の役割について学ぶ							
第11週	第6章 リハビリテーションの過程:医学的リハビリテーションの進め方:アセスメントの重要性や評価からプログラムの作成までの過程について学ぶ							
第12週	第6章 リハビリテーションの目的は生活の質(QOL)の向上を含めたものへと拡大している。演習 ①生活の質の評価方法 ②生活の質を上げるための活動							
第13週	第7章 機能障害をもたらす主な疾患と外傷、先天異常および精神障害 障害者基本法から機能障害の諸相について学ぶ							
第14週	第8章 リハビリテーションを支える社会保障制度 :自助・公助・共助の三者間のバランスのとれた福祉の達成が望まれる。社会保険制度について学ぶ							
第15週	まとめ							
授業外学習指示等	リハビリテーション＝機能訓練と考えられがちですが、深い思想や哲学や人間理解に裏打ちされた活動です。対象者の望む生活に向けて援助する作業療法士の基本となる考えを理解することが重要です。座学に加え動画視聴やレポートなど様々な内容により、リハビリテーションへの理解が深まるように学習していきます							

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 (昼間部) 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4

到達目標	① 作業の一般的特性を理解する。 ② 作業の過程、作業内容、作業の段階づけを理解する。 ③ 作業目的・効果を身体的・感覚的・認知・心理的・精神面で理解し、活動分析ができる。		評価方法
授業概要	① 具体的な作品の製作過程を体験し、理解を深める。(作業製作活動) ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表)		期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)
教科書等	作業－その治療的応用	使用器材	手工芸品等
週	授業項目内容		実施結果
第1週	作業活動とは(活動の特性、治療的活用) 作業活動実践: タイルモザイク ①		
第1週	作業活動実践: タイルモザイク ②		
第2週	作業工夫と段階づけ(活動分析) 作業活動実践: ちぎり絵 ①		
第2週	作業活動実践: ちぎり絵 ②		
第3週	作業活動実践: 紙工芸(きり絵、ペーパーフラワー、折り紙) ①		
第3週	作業活動実践: 紙工芸(きり絵、ペーパーフラワー、折り紙) ②		
第4週	作業活動実践 ステンシル、絵画(デッサン、塗り絵、フィンガーペインティング) ①		
第4週	作業活動実践 ステンシル、絵画(デッサン、塗り絵、フィンガーペインティング) ②		
第5週	作業活動実践: 七宝 ①		
第5週	作業活動実践: 七宝 ②		
第6週	作業活動実践: 革細工 ①		
第6週	作業活動実践: 革細工 ②		
第7週	作業活動実践: 籐細工 ①		
第7週	作業活動実践: 籐細工 ②		
第8週	まとめ		
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 レポートは、提出期限を守ること。		

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	作業の治療適応を理解し、作業種目を決定して取り組むことができる。			評価方法			
授業概要	① 障害体験を交え、作業製作活動を実施する。 ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表等)			期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎作業療法	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第9週	作業内容、作業工程の説明、計画(刺し子)・作業活動						
第9週	作業活動(刺し子)						
第10週	作業内容、作業工程の説明、計画(マクラメ)・作業活動						
第10週	作業活動(マクラメ)						
第11週	作業内容、作業工程の説明、計画(銅板細工)・作業活動						
第11週	作業活動(銅板細工)						
第12週	作業内容、作業工程の説明、計画(藤細工)・作業活動						
第12週	作業活動(藤細工)						
第13週	作業内容、作業工程の説明、計画(デコパージュ)・作業活動						
第13週	作業活動(デコパージュ)						
第14週	作業内容、作業工程の説明、計画(陶芸)・作業活動						
第14週	作業活動(陶芸)						
第15週	作業内容、作業工程の説明、計画(機織り)・作業活動						
第15週	作業活動(機織り)						
第16週	まとめ						
授業外 学習指示等	障害者作品展の見学						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	医学英語	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	・症状と疾患・障害の名称、人体の各部位の名称と機能用語を覚え表出できる。 ・治療の場面で用いられる英語表現を理解し表出できる。			評価方法 期末試験 70% 小テスト 30% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。						
教科書等	リハビリテーション英語の基本用語と表現	使用器材	必要に応じてDVD				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	Why do you want to become an occupational therapist ?① 姿勢他						
第2週	Why do you want to become an occupational therapist ?② 骨格他						
第3週	What do you have to study to be an occupational therapist ? ① 筋他						
第4週	What do you have to study to be an occupational therapist ? ② 内臓他						
第5週	What does occupation mean ?						
第6週	診断・治療に関する基礎英語						
第7週	診断・治療に関する基礎英語						
第8週	診断・治療に関する基礎英語						
第9週	診断・治療に関する基礎英語						
第10週	役立つ英語表現						
第11週	役立つ英語表現						
第12週	役立つ英語表現						
第13週	復習						
第14週	復習						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	随時小テストを実施します。（英語 ⇄ 日本語の変換、文章の和訳等）						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	コミュニケーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	医療職として求められる対人援助技能を学ぶ。 1 敬語を正しく理解する。 2 伝える(話す)ことができる。 3 受け取る(聴く)ことができる。(相手の気持ちに耳を傾ける。)			評価方法			
授業概要	授業で学習した対人援助技能知識を1対1及びグループ等で実践体験する。臨床場面においても実習を実施する。			期末試験 90% 学習態度 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必要に応じてプリントを配布	使用器材	PCなど				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	対人援助						
第2週	伝達トレーニング						
第3週	母音トーク・サイレントトーク						
第4週	コミュニケーション効果						
第5週	トータルコミュニケーション						
第6週	アクティブラスニング						
第7週	価値交流学习						
第8週	共感						
第9週	促し&繰り返しの技法トレーニング						
第10週	リーダーシップ						
第11週	状況対応論						
第12週	指示と助言と支持						
第13週	評定者浅在尺度、ジョハリの窓						
第14週	スリー・テン						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	実生活を復習の場とし、実践を積んで下さい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科（昼間部）1年	科目名	人間発達学	授業時期	後期	授業時数	30
-------	---------------	-----	-------	------	----	------	----

実務経験	発達障害研究所を開設運営	担当	吉村 幸子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「発達」について理解する。 2 発達のそれぞれの段階における身体的精神的特徴を理解する。 3 発達のそれぞれの段階間の連続性を理解する。			評価方法			
授業概要	胎児期から高齢期に至るまでの身体的及び精神的発達を、生活活動及び機能別発達面から、その過程を学習するものとする。			期末試験 80% 平常点 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学	使用器材	PC、DVD(乳幼児の発達と保育)、液晶プロジェクター、配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	子どもの発達を考える1	乳児期の発達	DVD				
第2週	子どもの発達を考える2	幼児期前期の発達	DVD				
第3週	子どもの発達を考える3	幼児期後期の発達	DVD				
第4週	人間発達概論1						
第5週	人間発達概論2						
第6週	胎芽・胎児期						
第7週	乳児期						
第8週	幼児期前期						
第9週	幼児期後期						
第10週	学童期						
第11週	青年期前期						
第12週	青年期後期						
第13週	成人期						
第14週	高齢期						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。						